

第190回寒中みそぎ祭り



4人の若者が郷土の繁栄を願い
厳寒の津軽海峡へ

天保2年（1831年）から続き、今年で190回目を数える神事「寒中みそぎ祭り」が1月13日から15日にかけて行われました。

4人の行修者は、13日の「参籠報告祭」から佐女川神社に籠もり、極寒の中、身を切るような冷水で幾度となく水ごりを繰り返して、厳しい鍛錬を行いました。

15日は、佐女川神社で「出御祭」を行った後、いよいよみそぎ浜へ。大勢の人が見守る中、行修者はご神体を抱くと、勢いよく津軽海峡に飛び込み、幾度となくご神体を潔め、1年の豊漁豊作を祈願しました。

その後、行修者は佐女川神社に戻り、みそぎが無事終了したことを報告する「本祭」が行われ、今年の「寒中みそぎ祭り」は幕を閉じました。